

公益財団法人第五福竜丸平和協会

平成21年度後期事業報告

平成21年11月2日～平成22年3月31日

以下は公益財団法人としての初年度の事業報告であるが、基本的には平成21年3月に特例民法法人で採択した平成21年度事業計画に基づいている。

1. 公益目的事業

ア 展示、保存対策

当期は、第五福竜丸展示館は指定された休館日を除き122日間開館した。来館者総数は36,490人、うち団体見学数は256団体で、小学校69校5,236人、中学校32校2,743人、高校14校425人であった。前期に続いて新型インフルエンザの影響での学校の見学キャンセル・延期があった。なお、平成21年度1年間の来館者総数は112,907人であった。

海外からは、JICA 青年グループ（ジャマイカ、コロンビア、コスタリカ、ケニアほか、海洋大学教員が引率、11月13日）、アメリカ、カナダの大学生グループ（20人、12月5日）、核物質管理国際会議参加代表（アメリカ、ノルウェー、インドほか19人、3月18日）、韓国の生協（Dure）代表（日本の生協・パルシステム東京とともに8人、3月26日）などが来館した。

また、立命館大学（文学部ゼミ10人、11月8日）、東京文化財研究所中山俊介氏及びみちのく北方漁船博物館の学芸員（11月19日）、静岡大学理学部放射科学研究施設（施設長など16名、12月19日）、東京大学（ドボルザーク博士と学生4人、1月28日）、第五福竜丸を建造した古座造船所（和歌山県古座町）の社主（植村直太郎）の娘さんご家族（2月18日）、焼津市（総務部長山下氏ほか2名、3月7日）、静岡大学（元学長佐藤博明氏、名誉教授本多隆成氏、3月7日）など多彩な方々が見えた。

日塔和彦（文化財木造建造物修復の専門家、評議員）が1月16日、千葉県館山市で第五福竜丸船体の現状と今後の課題について講演した。また、練習船「はやぶさ丸」当時の資料の収集についてよびかけた。

東部公園緑地事務所工事課より展示館エアコン設置の設計のための視察が行われた（3月10日）。

イ 企画展と資料収集

BIKINI 55→PIKADON 65 黒田征太郎展「核なき地球へのメッセージ」を11月21日から3月22日まで開催した。この展覧会では、黒田氏が第五福竜丸に寄せて描いたイラスト50点及び、広島・長崎両市長のイニシアティブにより平和市長会議が2020年をめざして核兵器廃絶を実現する「ヒロシマ・ナガサキ議定書」を提唱したが、『ヒロシマ・ナガサキ議定書を読む絵本』（黒田氏製作協力、広島NGO「Yes! キャンペーン」）のイラスト、コラージュ作品20点等が展示された。

黒田展オープニング（11月21日）には150人以上が参加、恵泉女学園大学からは授業の一環として105人の学生が参加した。ホームページへの掲載と併せてメディア、アート、大学関係にメール一斉送信（11月15日）で広報した。

黒田展については朝日新聞（12月18日）、東京新聞（11月21日、12月18日、1月9日）、読売新聞（1月13日）、毎日新聞（1月25日）、NHK新日曜美術館（2月21日）で紹介された。

被爆ピアノ（広島爆心2.5キロの民家で被爆したアップライト・ピアノ）の平和コンサートが1月31日に展示館で開催され140人が参加した。読売新聞（1月16日、1月26日）、時事通信社（1月31日配信）、朝日小学生新聞（1月26日）、朝日新聞（2月1日）、信濃毎日新聞（2月1日）、The Asahi Shimbun（2月2日）で紹介された。

「口笛コンサートー福竜丸とともに」が3月27日に展示館で開催され、130人が参加した。

ウ 巡回展への協力

当期は下記の巡回展に、展示パネルの提供、講師の派遣などで協力した。

- | | |
|-------------|-----------------------------|
| 11月8日～20日 | 岩手県宮古第五福竜丸展（実行委員会主催） |
| 2月9日～13日 | 東京都庁舎での原爆展（東京都原爆被害者団体協議会主催） |
| 2月14日～3月11日 | 印西市3・1ビキニ展示会（印西市平和委員会主催） |
| 2月17日～25日 | コープ神奈川相模原パネル展（コープ神奈川相模原主催） |
| 3月1日～14日 | 北海道・ふれあいセンターぴらとり（アイヌ博物館他主催） |

3月12日～4月25日 生協ヘルスコープおおさか（数ヶ所で開催）

エ 普及・広報活動

公益法人発足記念会が11月28日に学士会館で行われ、各界から70名が参加した。東京都、広島市、長崎市、焼津市などから祝福のメッセージが寄せられた。

平和博物館市民ネットワークの交流会が12月5-6日に東京都内・文京区民センターで開催され40人が参加した。

当期の3・1ビキニ記念行事として、3月6日午後、明治学院大学国際会議場で同大学国際平和研究所と共催で市民講座「核兵器のない世界をつくるために！」を開催した。講師・報告者はスティーブン・リーパー（広島平和文化センター理事長）、高原孝生（明治学院大学教授）、アーサー・ビナード（詩人）、山田玲子（被爆者）の各氏ほか、参加者は100人だった。

リーパー氏は翌3月7日に第五福竜丸展示館を訪問した。

その市民講座で話題になった、洞爺丸事故で海に沈み回収された久保山愛吉さん宛の手紙のことが3月6日の静岡新聞、日本経済新聞で取り上げられた。

そのほか、1月13日の朝日新聞で『『現場』探検、平和を再考』と題して私立中高一貫女子高の第五福竜丸等の史跡巡りが紹介され、また、1月26日の琉球新報で「青い鳥探して 希望あふれる人々」と題して第五福竜丸展示館安田主任学芸員が紹介された。

2. その他の事業

当期には新刊出版物はなかったが、黒田展での『ヒロシマ・ナガサキ議定書を読む絵本』の普及をはじめ既刊出版物を一定部数販売した。

3. 法人の管理運営

当期は、以下の通り諸会議を開催した。

12月19日	理事会
1月23日	臨時評議員会
3月20日	理事会

賛助会員等の異動は下表の通りである。

賛助会員	2009.11.1	2010.4.6
個人	386	379
団体	61	61

	2009.11.1	2010.4.6
ニュース購読会員	58	57